

平成25年度 燕市西蒲原郡国語部 活動報告

部長 齋須 喬

1 研究主題 思いや考えを伝え合う授業の工夫

2 研究の概要

(1)第1回 講演会 期日：6月5日(水) 会場：吉田産業会館

演題「解釈を深める伝え合いの授業の工夫」

講師 新潟大学教育学部准教授 佐藤 佐敏 様

<主な内容>

○主に俳句を題材に、俳句から読み取れる情景について話し合った。自分の既有知識、経験にアクセスし、根拠を本文から見付けて解釈するので、「経験したことが違う」「既有知識に誤りがある」「本文をよく読んでいない」などにより、同じ俳句を読んでも、一人一人解釈が異なる。つまり、同じ言葉を読んでも想像することが違ってくる。自分にはない経験を補充したり、そのような解釈の仕方があるのかと気付いたり、自分の読み間違いに気付いたりすることができる。それが話し合いをもつ意味である。

○「解釈を深める伝え合い」を目指す際、どうしてそう考えたのか、根拠は多く書かせるとよい。その際、本文に～と書いてある。→もし～なら、～となる。→だから～だ。と、考え方に文型を与える。ただ何となく話し合いをもつだけでは、学力を高める話し合いとはならないからである。

(2)第2回 授業研究 期日：12月4日(水) 会場：燕東小学校

1年「集めた言葉を使って東っ子かるたを作り、新1年生に東小学校のことを教えよう」

教材名「あつまれ、ふゆのことば」

授業者 燕市立燕東小学校 八幡 聡子 教諭

指導者 燕市立松長小学校 齋須 喬 校長



<授業の概要>

○教科書にある「あつまれふゆのことば」から発展させ、「東っ子かるた」を作って新1年生に学校のことを教えることを単元のゴールにして指導を行った。

○本時では「かるたづくりのわざ：リズムをよくする ①みじかくする ②へんしんさせる ③じゅんばんをかえる」を使って、ペアで、かるたの文を考えました。活動の途中で全体検討の場をもったことが、その後のペアでのかかわり合いを促した。くじで選んだ学校紹介の言葉を使い、五・七・五になるように、言葉を変えたり順番を変えたりし、1年生なりに工夫したかるたの文ができ上がった。

<協議会・指導の概要>

○3グループに分かれて協議を行った。ペア活動の場面はどこがよかったのか。時間配分や一つ目の課題の内容と提示の仕方、ワークシートの形式などについて意見が出された。

○授業者の先生の声の抑揚、大きさ、指示の仕方などが参考になったとの話が出された。

○指導者からは、指導要領と解説をもう一度読み、指導することをしっかり把握して授業をつくっていくことが重要であること、研究主題にかかわって、「思いや考えを伝え合う」1年生レベルでの具体的な姿についてご指導いただいた。

3 成果と課題

- ・講演会では、各自の経験等の違いから俳句の捉え方が異なるので、根拠を本文に求めることの大切さを中心に示唆を頂いた。また、授業研究は、生活経験をもとにしたかるた作りを通して、五・七・五によりリズムのある文になることを理解させ、グループで協力しあって校正を完成させ、参観者にとって参考になるよい授業であった。
- ・次年度も、講演会（講習会）と授業研究の2本立ての内容を軸に研修を深めたい。